

那覇西 LEGEND

沖縄県立那覇西高等学校
発行者:校長 仲吉 健一

【校訓】

じりつ



校長便り "Go for Win"

【「西リンピック」、本校初の毎年開催する体育系行事!】



7月17日(木)に本校初の毎年開催する体育系行事「西リンピック」を『体力?知らん!気合いっしょ!!目指せ!「那覇西LEGEND」』のテーマの下、豊見城市民体育館で開催しました。今年度より全ての学校行事を毎年開催に決定し、生徒自身の自主性と先輩・後輩の絆

を更に深め、「生徒の生徒による生徒のための行事」を目指しての試みです。練習段階から3年生が1・2年生をしっかりと引っ張り、目指すべき方向へ生徒自身が確実に進んでいることを確信しました。当日は那覇西高生ならではの活気に満ち、澆刺とした競技や演技を披露してくれました。総合優勝並びに応援合戦で1位になった1団(1・2組)、見事な演技及び団結力だったぞ!今回で築き上げた各クラスや兄弟学級での絆や結束をこれからの学校行事(11月の学園祭等)にも大いに活かしてください!本当に素晴らしい「那覇西LEGEND」だ、誇りに思うぞ、那覇西高生!!企画運営の中心となってくれた智子先生、そして体育科を始めとした全職員の皆さん、素晴らしい巨大な墨書を書いて頂いた書道の憲彰先生、本当にありがとう!

	総合部門	応援合戦
1位	1団(1・2組)	1団(1・2組)
2位	2団(3・4組)	4団(7・8組)
3位	5団(9組)	2団(3・4組)



個人成績(陸上部)	
種目・順位	氏名
男子4×100M 1位	平中航アシュリー
	永山皓崇
	下地明太
男子4×400M 1位	照屋 礼
	永山皓崇
	儀間敦皇
男子200M 2位	下地明太
男子400M 2位	照屋 礼
男子3000MSC 2位	杉本拓海
男子100MH 3位	金城空良
男子100M 3位	下地明太
男子200M 3位	照屋 礼

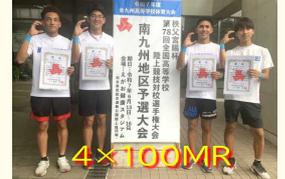
【高校総体南九州大会・見事な陸上部の活躍!】



5月30日(木)~6月2日(日)の日程で熊本県で開催された陸上競技の南九州大会において、本校陸上部が素晴らしい成績及び見事な「那覇西LEGEND」を残しました。特に、男子の2つのリレーでの九州1位は快挙です!全国大会(広島大会)でも那覇西の凄さを是非示し、更に大きく羽ばたいて



ください!誇りに思うぞ、陸上部の選手!引率・指導して頂いた信勝先生、誠先生、綾乃先生、芳和先生も本当にありがとう!



English Speech Contests & Reports of Studying Abroad

6月11日(水)に国際人文科による英語スピーチコンテストが本校隣のともかぜ会館で開催しました。空調の効いた座席も設置されている素晴らしいホールで、これまでの暑い体育館とは違い、弁士も聴衆も快適にコンテストを楽しむことが出来たと思います。2年生2名、3年生4名の計6名がそれぞれの考えや思いを英語でしっかりと表現してくれました。1位には2年生の安里梢さんの「Living peacefully with each other」が見事輝きました。2位、3位は3年生の袖洞結さん、當間梨亜那さんがそれぞれ受賞しました。表彰式は6月18日(水)の国際人文科集会で執り行ったのですが、表彰式後は海外留学・研修から戻ってきた3名の生徒からの報告会も実施しました。イタリア留学の城間咲紀さん、アメリカ留学の花城快くん、カケハシ・プロジェクトの内間柑奈さんの3名からそれぞれの体験を話して頂き、留学への興味関心を更に高めてもらいました。外国での体験は本当に掛け替えのない素晴らしい宝物です。大きく成長します。視野が圧倒的に広がります。より多くの生徒がこれからも外国へのチャレンジをしてもらいたいと思います。企画運営して頂いた英語科の先生方、本当にありがとうございました。

The Award Ceremony of English Speaking Contest
3名の受賞者



咲紀 快 柑奈

学年	弁士	演題
1学年	仲本 明香理	努力は必ず報われるのか？
1学年	平 美都希	他の人と少し違うだけ
2学年	上原 織羽	見かけについて
2学年	上里 彩桜	思ったことを言えない社会で私たちは何を失っているのか
3学年	下地 凜	ハラメント
3学年	謝花 姫花	匿名制の危険性
3学年	比嘉 祐太	授業中の飲食を許可するべき

【第39回校内国語弁論大会】

7月11日(金)の5・6校時に7名の弁士が出席し、「第39回校内国語弁論大会」が開催されました。熱中症対策も兼ねて大職員室から各HR教室へオンラインで配信する形での実施でしたが、左の表の演題でそれぞれの生徒がそれぞれの視点で実体験に基づいた高校生らしい素晴らしい弁論を行ってくれました。そして、見事、最優秀賞に輝いたのは2年生の上里彩桜さんでした。また、優秀賞には1年生の仲本明香理さんが輝きました。上里さんは県大会の学校代表となります。県大会でも「那覇西LEGEND」の気概を胸に、今回以上の弁論発表を示してください！前原教頭先生からも講評として、弁士一人ひとりに対する見事なコメントとフィードバックをして頂きました。企画運営して頂いた国語科の先生方、本当にお疲れ様でした。



審査員団



<野球部の3名、よく頑張った！>

本校高校球児の夏が終わりました。那覇国際高校との連合チームで、1回戦は八重山農林高校に2対1で勝利を収め、2回戦で北谷高校に8対1で敗れました。本校には3名の野球部員しかおりません。すべて3年生です。野球は少なくとも9名は必要ですが、3年生の3名は本当に3年間、お互いを支え合いながらよく頑張りました。心が折れそうな時やなかなかメンバーが集まらない苦しい時もあったと思います。3名だとまとまったシートノックやバッティング練習も出来なかったことでしょうか。校舎軒下でバドミントンのシャトルをしっかりとスイングをして打撃練習をしていたのもよく見掛けました。この3年間は3名の選手にとって掛け替えのない、生涯に残る3年間だったと思います。空騎、一真、秀太郎、君たちは見事な「那覇西LEGEND」の生徒だ！1・2年生の男子



諸君、是非、この3名の想いを繋いで欲しい！野球部に入部を！指導して頂いた俊哉先生、浩一先生、一星先生、本当にありがとう！



平和の詩 最優秀賞受賞！



本校3年生の座覇結月さんが、「第35回児童生徒の平和メッセージ」において、見事最優秀賞を受賞しました。これは、1,976点の応募の中から選ばれた本当に素晴らしい実績です！6月23日の沖縄県による「戦後80年沖縄全戦没者追悼式」前に平和祈念資料館で朗読をしたそうです。7月11日の本校校内弁論大会の場においても、この詩を全校生徒へ朗読してもらいました。紙面の関係で、ここには詩の掲載はできませんが、3ページ目に全文を掲載しておりますので、是非、ご覧になってください。若者の感性と巧みで切れのある表現や語彙に圧倒されるはず



です。この詩の結びの「礎の名は問う、汝はこの静けさを守る者か、託される者か」は深く心に突き刺さります。指導して頂いた美幸先生をはじめ、国語科の先生方、本当にありがとう！



【薬物乱用防止講話】

7月7日(月)に全生徒を対象に本校体育館で、九州厚生局沖縄麻薬支所の麻薬取締官をお招きして、「違法薬物から身を守るために」の演題で講話をして頂きました。違法薬物は十代の若者にも広がりつつある現状で、現役の麻薬取締官の立場から麻薬の種類からその危険性について話しを頂きました。本校生徒がそうした違法薬物に手を出さないことは勿論のことながら、意外と身近にそうした薬物の危険性が忍んでいることへの注意喚起も促せたと思います。生徒の皆さん、決して違法薬物には近寄らない、使用しないことを肝に銘じて、充実した学校生活を送ってください。企画運営して頂いた安裕先生、本当にありがとう！



Music for Your Pleasure (今月の音楽)

マーラー 交響曲第5番より「第4楽章」



最近ネット上で過去の番組や映画等が簡単に見られるようになりました。私が中学校時代によく見ていた古谷一行演ずる金田一耕助シリーズをネットで懐かしく見ていたら、そのドラマで頻りに流れていたのがこのマーラーの第4楽章でした。当時はマーラー作曲であることを、全く知る由もなかったのですが、ドラマの内容に相応しい効果的な使われ方に、今更ながら深く感心しました。美しい中にも退廃的な香りと儂く燃焼する情熱を感じさせ、さながら人生の終焉を弦楽とハーブで彩り、消えゆく命の灯火を静謐に表現した曲です。沈みゆく夕日を背景に永遠の眠りにつくヒロインを優しい笑顔で見送る主人公のシーンとまさにシンクロし、キラキラと輝く黄昏色に染まった景色そのものの音楽です。この幽愁で慇懃な響きとハーモニーが余りにも心に染み入る歳(還暦)に私もなりました。

いしじの前に

沖縄県立那覇西高等学校

三年 座覇 結月

石に刻まれた数万の名が
静けさのなかに 確かな声を宿す
それは過去ではなく
今を生きる地層に埋もれた
命の記憶
かつてこの島は
空と大地を焼かれ
山も海も 人の声も
戦の渦に呑まれた
砲声は朝を抱き
炎は夜を追い詰め
沈黙だけが 生を繋いだ
母は子の口を塞ぎ
少年は銃を握らされ
老人も赤子も
ひとしく逃げ場を失った
軍令という名の 命令は
生きる意思よりも重く
自決は荣誉とされた
死すら 義務とされた
生還した者にさえ
「なぜ生き延びた」との声が
刃のように突き刺さった
戦を終えても
傷は癒えず
記憶は風化を 拒みつつける
平和の礎は語る
敵味方の区別なく
国籍を超え
すべての命に名を与え
人間の尊厳を取り戻そうとする

意思を
名は数字ではない
それぞれが
血をもち
声をもち
愛し 愛された存在であった
石の冷たさは
熱を帯びた問いかけとなり
訪れる者の胸奥を揺さぶる
なぜこの地に
これほど多くの犠牲者が刻まれたのか
命どう宝
それはこの島が産んだ
最も切実な祈り
その祈りに耳を澄ますとき
平和とは 静けさではなく
記憶を引き受け 行動を選びとる
不断の営みであると知る
いしじの前に立ち
名を見つめ
声なき声を聴く

風が渡り
空が広がる
沈黙の中に
真実がある
忘れぬ者のみ
平和は語りかける
礎の名は問う
汝はこの静けさを
守る者か
託される者か

